

# JICA開発教育コラム

2022年度  
VOL.2

JICA開発教育コラム 2022年度 8月号 発行：JICA地球ひろば

## 誰もが自分を発揮できる 学校づくり

近年、日本に在留する外国人の数は全国的に増加しており、学校の中でも「多文化共生」を意識する人も多いのではないのでしょうか。このコラムでは、外国につながる生徒が全校生徒の半数以上である岐阜県立東濃高等学校での取組をご紹介します。

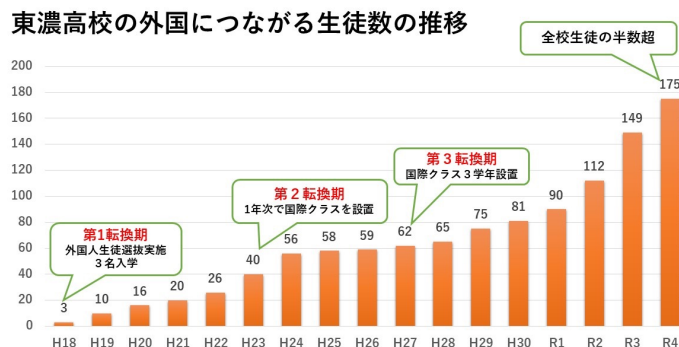
(執筆：岐阜県立東濃高等学校 国際部主任 和田さとみさん)

### 学校の多文化状況について(外国につながる生徒の割合)

岐阜県立東濃(とうのう)高校は、全校生徒332名のうち約53%の175名が外国につながる生徒です(2022年4月1日時現在)。生徒の国籍は、フィリピン(101名)、ブラジル(49名)、中国(3名)、ペルー(3名)、ベトナム(1名)、日本国籍で外国につながる生徒(18名)となっています。

2011年から2015年にかけて、全学年に「国際クラス」が設置され、「日本語ⅠⅡⅢ」が学校指定教科として開設されました。2021年度からは「国際クラス」以外の生徒も「日本語」の授業を

選択できるようになりました。2022年度は日本語の指導を必要とする29名の生徒が入学しました。



### 東濃高校で取り組んでいる活動事例

#### —生徒の「学びたい」「知りたい」から創造する授業—

4月は、生徒の「学びたい・知りたい」を大切にした授業をおこなうために、「日本語Ⅰ」を履修する1年生の生徒を対象に「日本語の授業でやってみたいこと」を

- ①「すき/楽しい/面白い/やりたい」
- ②「大人/仕事/将来」
- ③「日本語」

といったキーワードから自由に意見を書いてもらいました。日本語でも母語でも、絵でも図を書いても構わないとしました。するとそこには、実に伸び伸びと自己表現する生徒の姿がありました。



▲日本語の授業でやってみたいことをブレインストーミングする生徒たち

5月は、生徒の意見の中で一番多かった「食べ物」の話題を中心に、市場経済のしくみや物価、生産者の声(フェアトレード)等、主に公共(公民科)につなげて授業を考えました。授業の導入では、味覚(甘い・酸っぱい等)をそれぞれの言語で確認し、母国の食べ物について紹介する時間を設けました。

## 誰もが自分を発揮できる学校づくり

授業の展開部分では、普段口にしていない食べ物の原材料を知り、どのように世界につながっているかを学びます。また、フェアトレードをテーマに、生産者の声を読解教材から学び、不当な労働環境下で暮らす生産者と、自立した生活を送っている生産者との違いについて考えました。

最終的には「食べ物」をテーマとして、何を学び取ったかをまとめました。「なぜ働く人の給料が平等じゃないのか」「自分が生産者だったら・・・」など、働く意義や労働について深く考える生徒の姿を見ることができました。このように、専門教科の学習につながる日本語の授業を、今後も展開していく予定です。



▲ブレインストーミングの成果物

## 今後の目標、これからの多文化共生社会についての思い

東濃高校は外国につながる生徒が全校生徒の半数以上を占め、今までの支援の方法では、今後同じように生徒の実態に合わせた教育活動を行うことに限界を迎えつつあります。この現状を踏まえ、東濃高校として、あるいは岐阜県はどう対応していくのか、具体的な方向性と対策を考えなければいけません。「誰もが自分を発揮できる学校づくり」のために、これまで以上に外部専門機関との連携を強化し、課題意識を高めていく必要があると感じています。

## JICA開発教育オンラインセミナー 第2回 「多文化共生の文化」を学校(教室)につくるヒント を開催しました！(7月30日)

JICA開発教育オンラインセミナー「教室と世界をつなぐ6つのヒント～未来を担う力を育てるために～」(全6回)の第2回では、外国につながる若者を



対象にキャリア教育や多文化交流ワークショップなどを行ってきたJICA国際協力推進員の海老原周子さん、その現状や課題、実践事例を共有しました。居場所づくりにおいて大切なポイントや、その中での外国につながる若者の変容をお話しし、「学校で先生が一人に対応することはとても大変で限界がある。できる範囲で、ぜひ外部機関を活用してください。」というメッセージとともに、その連携のヒントを共有されました。また、2021年度JICA「多文化共生の文化」共創プログラムの参加者で、特別支援学校で勤務されてきた森裕紀子さんからは、プログラムでの学びや、特別支援教育から見える多文化共生の視点についてお話いただきました。



2021年度JICA「多文化共生の文化」共創プログラムの成果物はこちら  
【誰もが自分を発揮できる学校づくり～多文化共生アイデアBOOK～】

外国につながる生徒が臆することなく自分を表現できる場をつくることで、一人ひとりの生徒の自信がほかの生徒にも広がり、そして未来にもつながるのだと感じました。  
多文化共生にまつわる今後の研修やセミナーにもぜひご注目ください。